

**津波の恐れがある時は、
「早く・高いところへ、避難!!」**

1 津波避難の心得!!

津波から身を守るには、とにかく避難が第一です。いざという時に、しっかりと避難行動がとれるよう、以下のことに注意しましょう。



津波避難の基本 → 「早く・高いところへ・避難!!」

津波避難のタイミング

- ・海岸で地震の揺れを感じたら、「津波警報・注意報」を待たずに直ちに避難!
- ・地震の揺れを感じなくても、「津波警報」が発令されたら、直ちに避難!
- ・地震の揺れを感じなくても、「津波注意報」が発令されたら、直ちに海岸のそばから離れる!

津波避難する(した)際の注意事項

- ・周囲の方にも声をかけて、一緒に避難!
- ・安全が確認されるまでは、避難場所から離れない!



2 津波を知ろう!!

海の面で大きな地震が発生すると海面が上下に変動し、その動きが海水に伝わり津波が発生します。

① 波スピードで海岸に迫ってくる

深いところではジェット機並み。浅いところでもオリンピック短距離選手並みのスピードで押し寄せてきます。

② 海岸に近づくと高くなる

後ろの波が前の波に追いつき、どんどん高くなります。(強い波や入り江などは、特に高くなります)

③ 繰り返して襲ってくる

最初の波が一番大きいとは限らない。長い場合は1日以上もわたって何度も繰り返します。

④ 引退潮で訪れるとは限らない

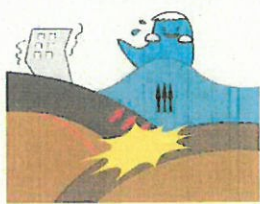
地震発生の仕方によって、いきなり押し寄せることがあります。千原沖地震では突然押し寄せました。

⑤ 引退潮の波が速い。潮干などで減ってくる

高さが20センチを超えると、身体によっては人が溺れる場合があります。

⑥ 地域によっては、日本にやってくる

平成22年2月発生したチリ地震でも、20時間以上かけて日本に押し寄せました。



3 海岸へ行ったら!!



まず、避難場所や避難経路を確認しましょう!

★ 津波に関する統一認識 ★
沿岸部には、津波から逃げるのに役立つ標識が設置されています。

津波注意
地震が起きた場合、津波が来る可能性のある地域を表示。

津波避難場所
津波に対しての安全な避難場所(高台)の情報を表示。

津波避難ビル
津波に対しての安全な避難場所(津波避難ビル)の情報を表示。

ラジオや防災行政無線などの情報に注意しましょう!

津波から命を守る心得

T-2

- 強い揺れを感じたり、津波警報を聞いたらとにかく**早く避難する**。
- 津波はとても速いので**津波を見てから避難して**いては間に合わない。
- 周囲の方にも声をかけて**一緒に避難する**。
- 常に「**より高いところ**」を目指そう。
- 津波は繰り返す。**津波警報が解除するまで避難**を続ける。



津波の来襲危険のある地域表示



安全な避難場所表示

避難 3 原則

《想定にとらわれるな》

ハザードマップに示されている浸水想定区域以上の災害が起こる可能性があると思え。

《最善を尽くせ》

「ここまで来ればもう大丈夫だろう」ではなく、そのときできる最善の対応行動をとれ。

《率先避難者たれ》

いざというときには、まず自分が率先して避難すること。その姿を見て、他人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことが可能となる。

(群馬大学大学院工学研究科:片田敏孝教授)

避難情報の種類と違い



災害対策基本法に基づき市町村長が発令する避難情報は3種類あります。これらの違いを正しく理解するとともに、身の危険を感じたら、ためらわず自主的に避難することが大切です。

種類	状況	住民に求められる行動
避難準備・ 高齢者等 避難開始	避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合	○避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は、避難を開始しましょう。 ○その他の人は、避難の準備を整えましょう。
避難勧告	災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合	○速やかに避難場所へ避難をしましょう。 ○外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。
避難指示 (緊急)	災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合	○まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。 ○外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。